

| （学校教育目標） | | （重点目標（中長期的目標）） | |
|--|--|---|--|
| <p>幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する</p> | | <p>【ひとづくり（豊かな情懷を育む人間形成）】</p> <p>1 生命の尊厳を自覚し、真理と正義を愛する知識・教養・創造性豊かな人間の育成に努力する。</p> <p>【ものづくり（付加価値の創造）】</p> <p>2 独創(Originality)・想像(Imagination)・工夫(Device)・努力(Effort)の精神を尊重し、工業・商業両分野における“ものづくりの拠点校”としての役割を果たす。</p> <p>【学校づくり（充実した学びの場の構築）】</p> <p>3 安心・安全な学校（いじめ・体罰のない）をめざすとともに、環境教育や総合技術高校としての専門教育の推進等による特色ある教育システムを構築する。</p> | |
| 領域 | 項目 | 具体的な教育活動 | 成果と課題 |
| ひとづくり | 1 自他を大切にすることの育成 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動を通して自己理解を深める取り組みを行い、自己肯定感や他人を思いやる気持ちを育てることにより、命を大切にすることを推進する。 「いじめ防止基本方針」を定め、「いじめ」を許さない学校づくりを推進し、いじめ被害の未然防止・早期発見・迅速な解決を目指す。 メディアリテラシー、人権平和教育等に関する教育活動を推進する。 クラブ活動や生徒会活動に積極的かつ自主的に取り組む中で、周囲と円滑な人間関係を築き、また、他人を思いやる心を持った豊かな人間性を育む。 | <ul style="list-style-type: none"> 全校人権平和学習では映画「聲の形」を鑑賞し、友人間の人権関係や多様性、共通理解などを考えた。〔キャリア学習指導〕 クラブや生徒会活動が活発に行われ、生徒がそれぞれ自分の役割を果たす機会を持つことができた。自己肯定感や充実感が得られる充実した活動が行われるよう適切な指導指導をしていく必要がある。〔生徒会〕 いじめの発生はいつでもあり得るとして今後も未然防止、早期発見に努めていく。特にSNS等に起因するいじめ事案は表面に表れないので、常に生徒の様子に注目し変化を捉える必要がある。〔生徒指導〕 |
| | 2 基本的な生活習慣の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、職員全体による働きかけから挨拶・服装・頭髪などに対する生徒自身の意識を向上させるとともに、5S（整理・整頓・清掃・清潔・整）の充実を図る。 生徒会本部役員の朝のあいさつ運動や、生活委員会の活動を通して規則正しい生活を送ることができるよう全校生徒に働きかける。 | <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組む環境が整っている。授業開始時の見回りや登下校時の立ち番指導等を計画的に実施してきたが、身だしなみや挨拶等に改善の余地がある。〔生徒指導〕 生徒会では4月と新組織発足直後1月の2回挨拶運動を実施した。新役員の中にも服装・身だしなみの改善を課題と感じている生徒おり、次年度から生徒が主体となって取り組める体制を作っていく。〔生徒会〕 |
| | 3 得意分野の伸長（卓越性の伸張） | <ul style="list-style-type: none"> 個々の意欲や特性ならびに能力を活かした活動ができるような環境や指導体制を整えるとともに、活動を広く発信することにより活動意欲を喚起する。 課題研究をはじめ様々な授業で積極的に関わり、21世紀型スキルの一つであるコミュニケーション力の伸長をはかる。 授業・クラブ活動や行事をリンクさせ、自ら課題を見つめ、自ら考え、主体的に判断し行動して、問題を解決する能力を身につけさせる。 キャリアデザインにつながる資格・検定・コンテストの情報提供を行い、資格取得に向けて生徒の要望や実態に合わせて講習会や補習授業を実施する。 終業式等の全校集会時に難易度の高い資格取得や検定合格を表彰し、資格検定の紹介と日程をクラスに掲示するなどの工夫を行い、資格取得に向けての意識づけを強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> 講習会や補習授業は、資格取得や基礎学力向上を図り、該当学科・教科により計画し実施した。〔普通科・専門科〕 検定等日曜一覧を作成してHR教室に掲示し、生徒自らが積極的に資格取得に取り組めるよう促した。また、終業式において、難易度の高い資格取得や検定合格者の表彰を教室配信により行った。〔キャリア学習指導〕 地元企業の卒業生による第一種電気工事士試験対策を行い、例年以上の11名が合格することができた。〔電気電子工学科〕 資格試験対策として長野県測量設計協会および建設業協会の試験対策講習会に参加し、資格取得に向けた意識向上を働きかけた。〔社会基盤工学科〕 |
| ものづくり | 1 基礎学力の定着（高校教育の共通性確保） | <ul style="list-style-type: none"> 学習習慣を身につけさせ、学ぶ意欲の向上を図る。 地域社会の課題に関心をもち、課題解決学習を通して学び続ける力の育成を図る。 ICT機器を活用した学習支援態勢の構築を図る。 月に一度HRで活用できる道徳教育ワークシートを配布、様々な社会的課題や地域の問題についての知見を深め、関心をもって問題解決に向かうとする態度を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の確実な習得に向けたPDCAの実施により、学力把握のための全国規模テストを計画的に実施した。結果の分析と教科指導へのフィードバックについて今後も継続的に検討していく必要がある。〔キャリア学習指導〕 タブレットを利用した学習支援態勢を構築することができたが、アプリケーションを用いた学習の導入や活用方法の研究に関して課題が残った。〔キャリア学習指導〕 定期考査前朝学習については、実施の方法を含め、より有効な方法を検討した。〔キャリア学習指導〕 ワークシートを通じて、地域社会の課題や人権に関する理解を深めた。〔道徳教育推進〕 |
| | 2 専門力の伸張 | <ul style="list-style-type: none"> 学科の教育指導方針に沿い、職業人としての心の育成、資格・検定取得のための指導、地域人教育での社会人基礎力の向上に取組む。 実験実習や課題研究をとおして知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性を向上させ、専門分野の実践的な力をつけるとともに、専門分野への探究心を育む。 「高度な専門性」を伸長させるためにコンソーシアムや地域の企業等と連携し、講習会や講演会を実施する。 県内外で活躍している社会人を招き、進路や企業での実体験など在校生に必要な心構えについて講習会を実施し、キャリア教育の充実を図る。〔機械工学科〕 県内の研究機関の見学や大学の出前授業をとおして電子機械分野の先進的な研究開発に触れ、専門性を高めるとともに創造性や将来への希望を喚起する。〔電子機械工学科〕 企業で活躍する本校卒業生を講師に招き、進路講話や技能5輪の技術披露等を通してより高い目的意識を持たせる。〔電気電子工学科〕 複数の地元測量会社から卒業生を講師に迎えて最新測量機器の講習会を開催し、専門技術に対しての見識を深め、学習意欲を喚起する。〔社会基盤工学科〕 建築士会や専門学校から講師を招聘し、課題研究授業の充実と専門技術の向上を図る。〔建築学科〕 フィールドスタディを複数回計画し、地域人教育における探究学習の充実を図る。〔商業科〕 | <ul style="list-style-type: none"> コンソーシアムや地域の企業の協力のもと講習会及び講演会が実施できたことにより専門性を高め、技術者としての心構えを学ぶことができた。〔地域協創推進〕 歩行補助用ロボットスーツを研究、販売する県内企業の見学や、公立諏訪東京理科大学の教授による特別授業をとおし、電子機械の楽しさや有用性を理解する機会となった。〔電子機械工学科〕 測量実習や製図において、自己評価をすることにより振り返り学習およびPDCAを確認させ、学習習慣を定着させた。また、学科独自の発表会の開催やHPの刷新等によりこれまでの取り組みや成果を詳細に発信することができた〔社会基盤工学科〕 時代のニーズにあわせて授業のため、企業の支援を得て専門力の向上を図った。全学年で建築士とのワークショップを開催し、地域の課題に目を向けることができた。〔建築学科〕 1,2年生ともにフィールドワークを実施することができ課題発見能力や課題解決の手法について学ぶことができた〔商業科〕 |
| | 3 総合技術教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 「地域協創スペシャリスト」を育成するために開始した普通科目内による1年生「協創教育基礎」、学校設定教科「総合技術」に設定される2年生「地域ビジネスと環境」、3年生「地域活性化プロジェクト」を総合技術高校における探究学習プログラム「地域協創教育『虹』」と銘打ち、競争力や課題解決力の高向上を図る。 他の総合技術高校との連携を深め、情報を共有することにより、学校設定教科「総合技術」の深化・発展を図る。 全校課題研究発表会の内容を充実を図り、本校の特色ある教育活動を企業や地域に向けて発信する良い機会と捉え効果的なPR方法について工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「地域協創教育『虹』」において、地域課題を共通教科の視点から考察できたほか、工業・商業の視点からも考察することができた。3年生では、各学科に関連する業界の課題を発見し、総合技術による地域活性化を研究できた。授業後の5段階による自己評価の平均値は、協創力(4.7)、探究力(4.6)という高水準な結果が表れた。〔地域協創推進〕 学科別課題研究発表会及び全校課題研究発表会を計画し実施した。全校課題研究発表会については、新型コロナウイルスの影響で3年間実施できなかったが、映像の教室への配信や展示場所を科別に分散させるなどの工夫を行い無事実施することができた。〔キャリア学習〕 北海道科学大学の三橋先生を講師に迎え「宇宙と通信」の講演会を開催し、宇宙に関する興味関心を高めることができた。〔工業科〕 課題研究「松川おいでんしょプロジェクト」では建設業協会や学科間で連携しながら、全校課題研究発表会に向けて生徒教員が課題を調査発見し考察しながら取り組んだ。〔社会基盤〕 建築士とのワークショップで課題研究の内容の充実ができた。〔建築〕 |
| 4 進路指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した指導体制の下、進路希望調査・面談により生徒・保護者の進路希望を把握し、様々な行事を通じて進路意識を高める。 キャリア学習や学習支援サービスを活用して、自分の在り方や職業人としての生き方を構想する力を育む。 進学希望者、就職希望者に対する補習・面接指導を全職員の協力によって実施し、生徒個々の進路希望の実現に向けた支援を行う。 新しい入課制度や、他校の指導事例に関する情報収集を行い、より効果的な指導を行えるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 3学年全員に4月から面談を行い、意識喚起や希望の調整を行った。求人票をタブレットで閲覧できるようにし、2年生も秋から企業研究できるようにした。 コロナ禍であったが、学年ごとに適性検査やガイダンスを実施した。2学年3学期には希望者による事業所見学を計画している。 就職希望者への面接指導を全職員の協力で複数回実施できた。 学校推薦型選抜でも基礎学力や思考力が求められており、早い段階からの学習支援が必要になる。 専門員(医療・家政・他)の進路希望者に対する標準的な指導方法を審議し、夏休み前から柔軟に対応できるようにした。〔以上 進路指導〕 2学年を対象にインターンシップを計画したが、商業科以外は新型コロナウイルス陽性者増加の影響により実施できなかった。しかし、各専門科で科独自の企業・学校見学や講習会を実施することができた。〔キャリア学習指導〕 | |
| 学校づくり | 1 安心・安全な学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を高め、事案発生の場合に迅速で適切な対応を目指す。 新型コロナウイルス感染症対策となりながら諸活動を進めていく。その際、自粛等が生徒の身心に与える影響を最小限に抑えるため、きめ細やかな健康観察による生徒の状況の把握に努めるなど、専門機関との連携を含めた組織的な対応を全校全体で最大限に実施する。 様々な教育活動をおして「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を持たせ、一人ひとりの関わり合いを大切にするとともに、職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じてチームでの支援体制を整える。またSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内外での支援体制を強化する。 日常の学校生活の中で、コミュニケーション能力や社会的自立心の育成に努めるとともに、命を大切にすることを教育を推進していく。さらに必要に応じて、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し生徒の自己理解を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の動向に注意し、状況に応じた指導・支援を臨機応変に行う。さらに個々の生徒の実態把握に努め、家庭・地域・関係機関等との連携を強化して指導に当たった。〔生徒指導〕 これまでのスマートフォン問題に加え、タブレット導入に伴う諸問題、ネットトラブルなどをめぐる新たな課題にも迅速に対応できる指導体制を確立する。〔生徒指導〕 発生事案や生徒が抱える問題などに対して学校・家庭・SC・S・SSW・医療機関が連携しながら迅速に対応を行った。〔教育相談〕 危機対応に関して更に見直しを行い、職員の意識を高め、体制を強化していく必要がある。〔教務〕 新型コロナウイルス感染症に関わる対応においては、校内の分掌が連携して様々な対応を迅速に行うことができた。〔教務〕 |
| | 2 環境美化の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 美化委員会と職員の連携を強化し、日常の清掃活動やごみの分別収集について立案・実施・指導し、校内の清掃美化の徹底を図る。 環境問題に対する全校生徒の意識向上を目指し、美化委員会およびISO委員会の自主的な取り組みを職員全体で支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> 美化委員会とISO推進委員会、職員の連携を図り、日常の清掃活動におけるごみの分別収集や資源ゴミの回収、一斉美化作業や大掃除の準備・片付け等を行い、校内の環境美化に努めた。〔ISO美化〕 ごみの分別が不十分なため分別方法の徹底を図り、リサイクルを中心とした環境問題に対する意識向上を目指した。〔ISO美化〕 日常の清掃時、年数回の部屋清掃の際に美化委員、ISO推進委員が中心となり、生徒会役員が協力してゴミ分別と徹底の呼びかけを行ってきた。委員や役員の実践の意識は高まったが、全校へ最悪させることができず一般の生徒にどう伝えるかを考えねばならない。〔生徒会〕 |
| | 3 組織的な学校運営 | <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度実施の新指導要領に基づく新たな教育課程へのスムーズな移行を目指す。 令和4年度1年生からの3観点学習評価の適用に向けて、関係する諸課題に対して各部署で検討し連携をとりながら準備を進めてゆく。 校務支援システム(C4h)の運用を通して出欠管理や査定情報管理等、効率的な業務遂行を目指す。 新型コロナウイルス感染症対策を含む学校運営上の諸課題について係や学年が密接に連携しながら状況に応じた迅速な対応が取れる様な態勢を整える。 生徒募集と入学者選抜のあり方について現状の分析と今後の課題を検討し、関係の分掌が連携を取りながら見直しを行っている。 総合技術高校として発足してから9年が経過し、新たな取り組みの方向性に沿いながら運営上の諸課題の解決に取り組む。 本校の教育活動状況の地域への発信を図る。 生徒1人一台端末(BYOD)の活用について、関係部署で検討を進める。 安全運転、わいせつ行為、体罰、個人情報について研修等を行い、非違行為の未然防止に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を通して、地域や企業との関係が築け、生徒たちが成長するための支援体制を強化することができた。また、総合技術教育推進事業「民間教育課程（キャリアプログラム）」が設置された。〔地域協創推進〕 3観点学習評価について、学期ごとに教科による観点別評価基準の見直しと改善、情報共有のための職員会研修を行った。指摘された課題について各係が連携をとりながら今後とも検討を進めていく必要がある。〔教育課程・教務・キャリア学習〕 生徒支援システム(C4h)については関係部署と連携し、業務の効率向上と活用の定着を図っている。〔情報処理・教務〕 学校入一台端末(BYOD)の活用に関して、一定の期間を設けオンライン授業の活用を促すなど、自宅待機中に対応できる環境づくりに努めた。〔教務〕 職員の非違行為の未然防止のため、研修の回数を増やすなど意識啓発に継続して取り組んできた。〔教務〕 |